

教科・科目		教科書
家庭基礎		図説家庭基礎(実教出版)
学年	単位数	使用教材
1年(文理)	2	家庭基礎準拠学習ノート(実教出版)
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活のありかた、子どもと高齢者の生活と福祉、生活の自立のための衣食住や消費生活・環境などの基礎的な知識・技術を身につける。</li> <li>・生活課題を主体的に解決し、生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身につける。</li> </ul>	

学期	学習内容(単元等)	到達目標
1	自分らしい生き方と家族 これからの人生をデザインする 青年期を生きる 生活を支える労働 生活時間から見えるもの 現代の家族	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人生設計に必要な要素を理解する。</li> <li>・生活的・経済的・精神的・性的自立について理解し、自分らしさは一人ひとり異なることを理解できる。</li> <li>・職業労働の雇用形態について理解し、職業には自己実現の要素もあることが理解できる。</li> <li>・現在の生活時間の状況をふまえ、生活時間と労働の関係について理解できる。</li> <li>・家族・家庭の役割について理解できる。</li> </ul>
	子どもとかかわる 子どもの誕生 運動機能の発達と知的発達 生活習慣と健康 親になることを考えよう 健やかに育つ環境と支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来子どもを産む可能性のある今の10代の健康が子どもの命にかかわっていることを理解する。</li> <li>・運動機能の発達と知的発達について理解できる。</li> <li>・子どもの発達と起きやすい事故の関係について理解できる。</li> <li>・自分の現在・将来と結びつけながら考えることができる。</li> </ul>
	高齢者とかかわる 高齢者を知る 高齢者のサポートと介護の心 社会保障制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加齢に伴う心身の変化や特徴について理解し、個人差があることを理解する。</li> <li>・高齢者をサポートする心持ちや方法を理解できる。</li> <li>・高齢期に関する制度の必要性について考え、社会全体で支えるしくみを理解することができる。</li> </ul>
2	食生活をつくる 私たちの食生活と健康 5大栄養素 食品の選択と表示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の食生活の変化と問題点について学習する。</li> <li>・5大栄養素と水について学習し、からだとのつながりについて考える。</li> <li>・食品の旬や選択する際のポイント、食品の品質表示</li> </ul>

学 期	学習内容（単元等）	到達目標
	食品の衛生 食事摂取基準 食品群別摂取量のめやす 献立作成 調理の基本	について学ぶ。 ・食中毒の種類を学び、衛生的な管理に結びつける。 ・どのような栄養素がどれくらい必要なかを学ぶ。 ・食品群別摂取量のめやす、食事バランスガイドをみながら、何をどれだけ食べればよいのかを考える。 ・調理の流れ、調理操作や調理技術を習得する。
	衣生活をつくる 人と衣服の関わり 健康で安全な衣服 衣服素材の種類と特徴 衣生活の計画と購入 家庭での洗濯・保管 持続可能な衣生活をつくる	・人と衣服のかかわりや衣服の機能について学習する。 ・快適で安全な衣服について学習する。 ・衣類素材の性能や加工・改善について学習する。 ・衣服の入手から処分まで、衣生活を計画的に考えられる方法を理解する。 ・家庭での洗濯方法・保管の方法などについて学ぶ。 ・衣生活と資源・環境とのかかわりについてについて学ぶ。
3	住生活をつくる 人と住まいのかかわり 平面計画からみた住空間 健康に配慮した住まい 安全な住まい	・住まいの機能や文化、生活様式について学習する。 ・生活行為に対応した様々な住空間について学習する。 ・快適な室内環境について、必勝、最高、通風、換気、騒音、しゃ音、冷暖房の要素を学習する。 ・災害や家庭内事故とその対策について学習する。
	経済的に自立する 日々の収入・支出の把握 社会と家計の変化 長期的な経済計画	・家計の構成を学習する。 ・現代の家計の特徴について学習する。 ・ライフイベントや生活のリスクなどに備えた、生涯を見通した経済計画と管理について学習する。
	消費行動を考える 契約と主体的な消費行動 多様化する販売方法と問題 商法 多様化する支払方法 消費者の権利と責任	・消費者であることを理解し、消費行動についてその都度意思決定が行われていることが理解できる。 ・消費者信用を前提とした支払方法の仕組みを理解できる。 ・消費者問題や消費関連の法律について知り、消費者の権利と責任について理解できる。